

平成30年10月23日

南砺市長 田 中 幹 夫 様

平地域自治振興会

会長 南田 実



## 要 望 書

平素は平地域の生活環境整備、地域活性化事業につきましては、日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当地区の振興発展、公共交通等に係る下記要望について、地区住民の要望でありますので格段のご高配を賜りますようお願いいたします。

### 記

#### ◆ 要望事項

- ① ドクターヘリ ランデブーポイント舗装について
- ② 相倉入り口の国道304号線渋滞対応について
  - ・市道相倉仏岩線の改良及び冬季雪崩雪庇対策について
  - ・「みんなで農作業の日」棚田オーナー事業
  - 相倉水田の給排水施設・地盤整備・石積みについて
- ③ 南砺金沢線の運行延伸について



平成 30 年 10 月 23 日

平地域自治振興会

H30-39-001 総務課 防災危機管理係

## ◆ ①ドクターヘリ ランデブーポイント舗装について

### 1. 前 提

ドクターヘリコプターは医療機器や医薬品を搭載し、医師、看護師が同乗するヘリコプターで基地病院に常駐し、要請に応じて迅速に救急現場等に向かう。病院から遠い地域から搬送時間が短縮できるだけでなく医療スタッフの早期な処置によって救命率の向上や後遺症の軽減が期待できる。

特に病院まで所要時間が長い五箇山地域ではオールシーズンでドクターヘリコプターの活動を希望したい。

### 2. 現 状

平地域では、現在 10ヶ所のランデブーポイントが設置されています。地域内の実績は昨年実績(5回)今年度 9月末実績(9回)であります但し冬季間での実績がありません。五箇山は冬季間の降雪期は雪降ろしや、除雪など危険な作業も多くあり、高齢化率の高い地域でもあるためドクターヘリコプターは、救急搬送の一番の頼りとなっております。

【下梨～304号線7ヶ所】

①平クロカン場、②平中学校グラウンド、③相倉国民休養地広場、④南砺高等学校グラウンド  
⑤平スキー場駐車場、⑥平若者センター「春光荘」駐車場、⑦相倉合掌集落駐車場入り口

【大島～156号線3ヶ所】

①道の駅たいら駐車場、②たいらマウンテンスクール、③ゆれあい温泉センターゆ～楽

### 3. 課 題

平地域のヘリポート利用としては庄川の右岸左岸で、下梨～304号線、大島～156号線に分けられ、特に平若者センター「春光荘」駐車場とたいらマウンテンスクールでの離発着が多い。しかし、春光荘は駐車場半分が未舗装であり、マウンテンスクールグラウンドも未舗装である。また、降雪期は未舗装のため除雪ができずヘリコプター離発着ができなくなる。

### 4. 要 望

ヘリコプター離発着場所を全面舗装し、頻度の高い2ヶ所をオールシーズン運行可能とする。

春光荘駐車場	2,000㎡	12,960千円
マウンテンスクールグラウンド	2,270㎡	14,710千円
※マウンテンスクールグラウンド(道路のみ)	360㎡	2,333千円
(全面舗装できない場合はマウンテンスクールへの進入路の変更)		

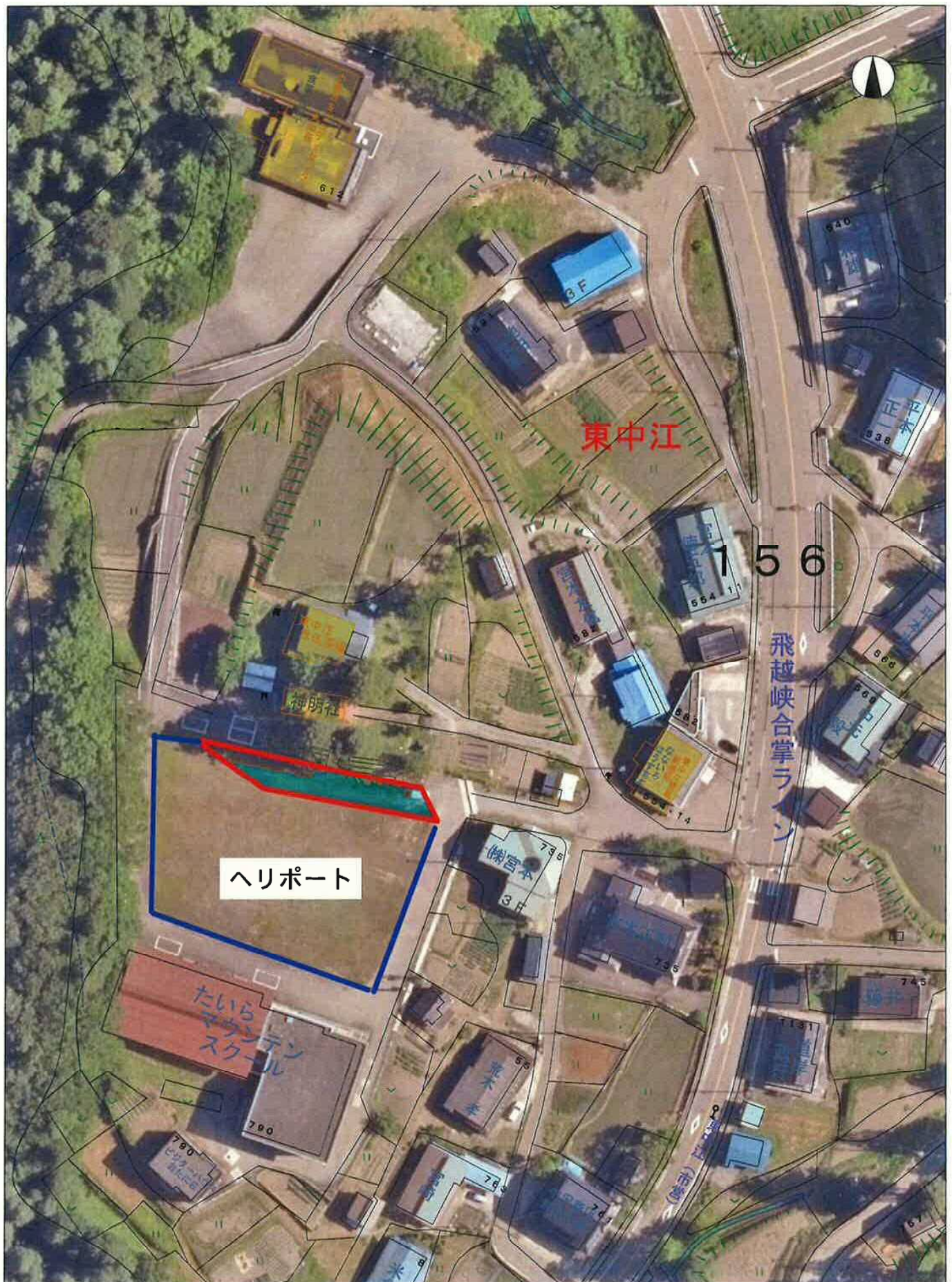












UserID = 087001

1/1000

0 10 50m

2018年10月1日





平成30年10月23日

平地域自治振興会

## ◆ ②相倉入り口の国道304号線渋滞対応について

### 1. 前 提

世界遺産相倉合掌集落は、昭和45年に国指定史跡を受け、平成7年12月にユネスコの承認を受け「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として登録された。この相倉集落を良好に維持・保存するために平成10年に相倉合掌造り保存財団が設立され、財団で集落の景観保全などの対応、駐車場の運営を行っている。

### 2. 国道と国道入り口の現状

ゴールデンウィーク等の連休行楽シーズンは自家用車での観光客が多く、国道と入り口の交差点で相倉駐車場に入りたいが駐車場が満車となり、入り口で立ち往生し国道304号線で後続の車が渋滞する。特に登坂車線がない下梨から城端に向かう道路が渋滞する。また、国道156白川郷、菅沼からの観光客の流れも原因がある。昨年までは、相倉保存財団が、南砺市のバスを借りシルバーが運転し、平中学校のグラウンドに駐車させて、シャトルバスを運行していた。今年も同様に対応し、これにより渋滞なくスムーズに国道の車両は流れていた。

### 3. 課 題

今年、相倉保存財団にゴールデンウィーク中のシャトルバスの運行について確認したところ「今年は財団はバス運行しない」と返答あり、急遽誘導員の委託とシャトルバス運行を南砺市が行った。天候にも影響されるが、ゴールデンウィーク中、渋滞があった場合の対応が懸念される。

渋滞対応ができない場合、緊急車両や定期バスの運行に支障をきたすことになり、また、海外観光客の航空機搭乗時間に影響がでることもあり、報道等で南砺市の観光イメージが悪くなる。

### 4. 要 望 **H30-39-002 交流観光まちづくり課 ブランドプロモーション係**

今年は行政センター対応であったが、ゴールデンウィーク対応（国道誘導員を配置と平中学校を駐車場としシャトルバスを運行）できるようお願いしたい。

#### 平成30年5月の対応

国道誘導員委託料 139,968 円

シャトルバス運行 ※行政センターバスで市役所職員が対応

#### ※相倉関連の要望事項

- ① 市道相倉仏岩線の改良及び冬季雪崩雪庇対策
- ② 「みんなで農作業」で借用している水田の給排水施設・地盤整備について

① 市道相倉仏岩線の改良及び冬季雪崩雪庇対策

【課 題】

大型の観光バスが相倉集落に出入りしているが、道幅が狭い箇所がありバスのすれ違いが出来ないことがある。

降雪期に相倉観光にこられる特に外国の観光客は雪がめずらしく、道路両サイドに歩くため、道路法面に付いた雪が落雪の危険がある。

【要 望】 **H30-39-004 建設課 道路係**

道路拡幅と雪崩雪庇対策を行い、世界遺産に訪れた観光客が事故に会わぬように対策を行っていただきたい。

② 「みんなで農作業」の水田の給排水施設・地盤整備・石積みについて

【課 題】 **H30-39-004 文化世界遺産課 世界遺産・文化財係**

毎年「みんなで農作業の日」棚田オーナー事業を相倉集落入り口の機械作業も容易でない、小さな面積の棚田で田植え、稲刈りハサ掛けをして、世界遺産米としてオーナーに配給している。この棚田は世界遺産の景観上大切な水田であり、この事業を継続していく必要があると思われる。しかし、相倉地内では水量が不足しており、この水田を維持管理するに水管理に苦慮しています。

現状の給排水設備が機能していないため水路から黒パイプで給水を行い、排水には畦を切っている状態である。さらに水田の水持ちが悪いので、基盤改良が必要である。

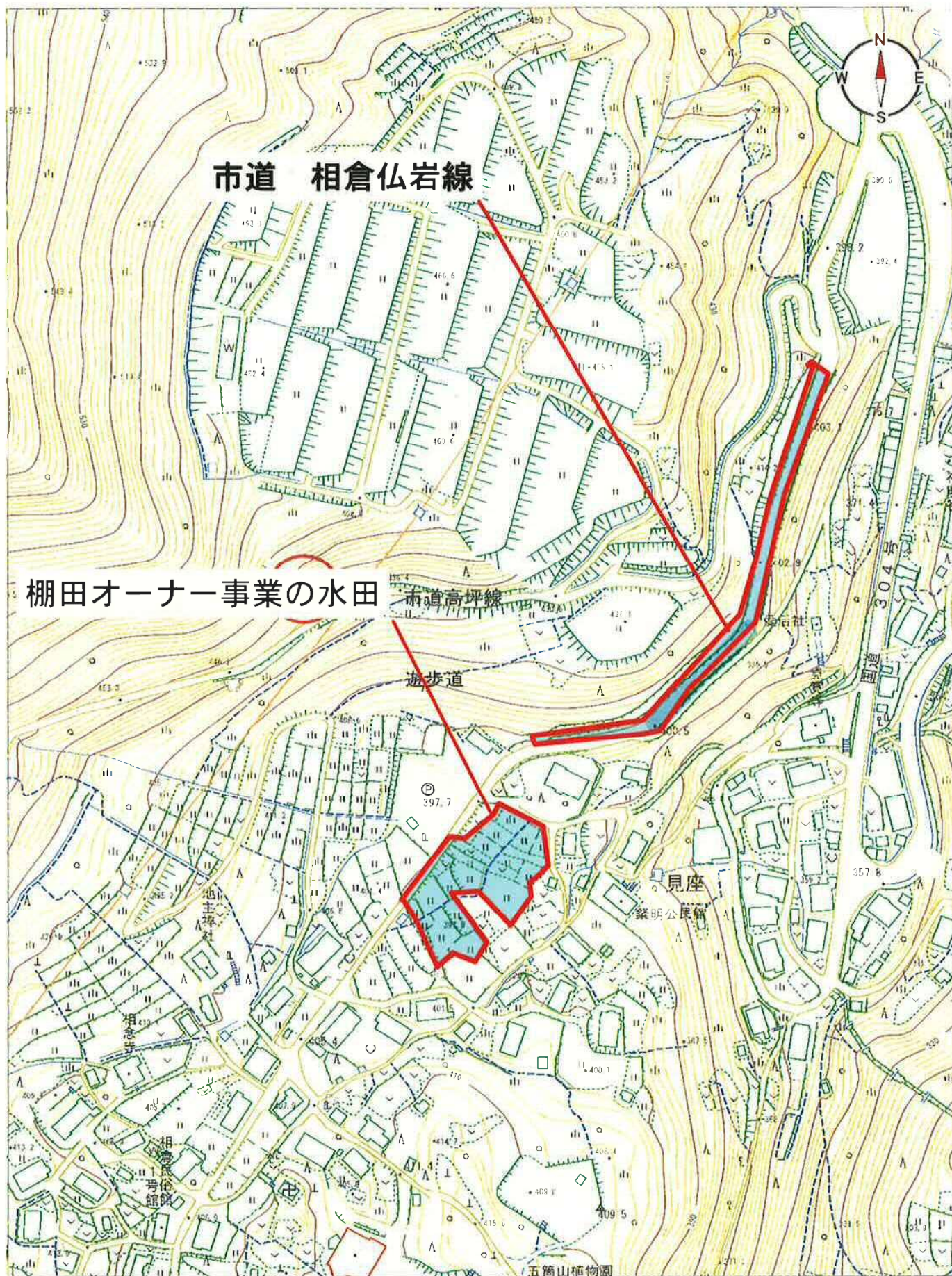
また、石積みも老朽化し、崩れ落ちて景観がよくない。

【要 望】

現在の水路の高さに合わせて給水口、排水口を設置。基盤も整備（土壌改良）し水持ちを良好にすることで水不足と労力の軽減を図りたい。

旧村時代に実施した、石積みの補修に棚田保全事業（県単）の継続を要望したい。





(中央) 1/2500

0 100 200m











































平成 30 年 10 月 23 日

平地域自治振興会

### ◆ ③南砺金沢線の運行延伸について

#### 1. 前 提

- ・南砺金沢線は金沢駅西口から井波駅間を毎日 6 往復運行しており近年では客足も伸びている。
- ・下梨井波線は下梨からアスモ間を火・金曜日のみ運行しており、小谷地区の国道から離れた集落は一部デマンドで運行されている。
- ・世界遺産バスは高岡～白川・城端～白川をそれぞれ 1 日 5、6 往復土・日・祝日は城端～白川を 1 日 9 往復運行している。

#### 2. 現 状

平地域の 156 号線沿いの集落の高齢者は下梨井波線（火・金曜日のみ運行）を利用し市民病院への通院や食料品、日用品等の買い物に利用している。

南砺金沢線を利用する金沢からの外国人観光客はバス運行表の確認で観光したい目的地が探し出せない。乗り継ぎを行えば目的地に行くことができるが、難解である。金沢からの観光客が公共交通を利用して国道 156 号線沿いの観光地に行きにくい。

#### 3. 課 題

平地域の 156 号沿いの集落（特に下出から下流集落）の自家用車を運転できない高齢者は下梨井波線が唯一の公共交通手段である。そのような中で、「火・金曜日以外も病院や買い物に行きたい」「休日に買い物に行きたい」「休日に世界遺産バスで高岡に行きたい」等の意見が聞かれる。高齢者の公共交通手段が少ない。

「相倉合掌集落」と和紙の里を結ぶ公共交通、また井波へ往復する 156 号線の公共交通が平日のみ運行であり和紙の里へのアクセスが少ない。土日・祝祭日の観光客の交通手段が困難である。

#### 4. 要 望

南砺金沢線の運行経路を金沢～相倉合掌集落として高齢者の公共交通の利便性を上げていただきたい。また、観光面では南砺金沢線を延伸することで、井波木彫りの里、庄川船舶（大牧温泉）、和紙の里、相倉集落へ金沢から観光客を誘致し五箇山地域の観光事業（特に五箇山和紙）推進をお願いしたい。



## 【自由記入】 ◆皆さんに質問です◆

※平地域の将来や村づくりについて等、あなたのご意見をご自由にお書きください。

**1、現状は満足し誇りを持って生活している**

平地域は、アンケートにあるように人口の減少と高齢化で、将来を考える場合、地域の運営は厳しいものが予想される。しかし現在住んでいる私達は決して悲観しているとは思えない。少なくとも現状については結構満足しているのではないだろうか。何故ならば幼少期の貧困時代に対し、その後の生活環境は急速に改善され、都市部と比較しても十分誇りを持って生活できる水準にあると考えられるからである。

**2、定年後の子息を呼び寄せる**

人口の減少を少しでも食い止める方法として、外部からの移住を成功させている村落もあるが、空き家や交通アクセス、職場、教育の面で平地域の中でどこでも同じ条件下にあるとはいえない。次善の策として村外に出て生活している子息が定年を迎えたところで、帰省を促すのも一つの方法と考える。そのためには魅力ある村落づくりをしておくことである。例えば自然を活かして春であれば山菜が豊富に採れるように山菜の保護・育成を推進するなど、将来に向けた村落づくりが課題となろう。

**3、見捨てられつつある小谷地域、「なんバス」アクセスの不備**

メディアの五箇山紹介は“相倉・菅沼・合掌造り”か“利賀”ばかり（南砺市広報も）、その他の集落は殆ど名前が挙がって来ない。確かに世界遺産の観光地には多くの観光客を呼ぶことが出来て大きな資源であることは間違いないから世界遺産バスも通る。一方私が住む小谷地域では世界遺産バスまでのアクセスを「なんバス」に頼っているが、土・日・祝日は運休（利賀村は毎日運行）、しかも平日5本ある「なんバス」の下梨における世界遺産バスとの乗り継ぎ（新高岡行き）が出来るのは、小谷方面発→下梨着の7:31と15:22、16:41の3本だけ。また世界遺産バス（新高岡乗車）から小谷方面への「なんバス」乗り継ぎは、12:11と17:25の2本だけ。ただ火、金曜日だけ11:00がある。一番乗車したい土・日・祝日は運休だし、新幹線に乗りたいたと考えても早朝か夕方に限られてしまう。80歳代の老人としては「小谷地域に冷たい行政」と思っている。

**4、移動スーパー「とくし丸」**

平成29年7月より砺波市のスーパーマーケット「ヴァローレ」が、毎週水曜日に移動スーパー「とくし丸」で新鮮な食材の買物を楽しませてくれている。食材のお店が無くなった小谷地域の高齢者にとって水曜日は“待ち遠しい一日”になった。ヴァローレは砺波市と庄川に2店舗を構え、「とくし丸」は現在5台保有しているという。

アンケートは以上です。御協力ありがとうございました。